

第5学年2組 外国語科学習指導案

単元名：Unit7 Welcome to Japan! (New Horizon Elementary)

指導者 T1 田中 久絵 (専科)

T2 Xavier Rice (ALT)

対象：5年2組 30名 日時：令和7年11月15日(土) 12時30分～13時15分 場所：第2多目的教室

I 関連する学習指導要領における領域別目標

話すこと (発表)	ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
--------------	---

II 単元について

本単元は、日本国内の自分が行きたい場所やその理由を伝え合う活動を通して、I want to を用いた～に行きたい、～をしたいという表現を身に付けることを目的とする。その際、行きたい場所として選んだ要因がその地域の特色になっていることに着目させることで、自分たちの住む青森県についても、同じように地域に根差した特色があることに気付かせ、それを魅力として捉えさせる機会としたい。児童は、生まれた時からインターネットで様々な情報を収集したり、YouTubeやオンラインでのつながりを通して、ゲームやアニメなど、家にいながら多くの楽しみを見つけたりすることができる。反面、実体験が不足しがちなため、自分たちの住む場所は田舎でつまらないなど、地域の特色を魅力とは捉えていない一面があることが予想される。そこで、青森県の魅力に触れる活動を通して、自分たちの住む場所に愛着や誇りをもつきっかけにしたいと考え、本単元を構成した。

単元の前半は、日本地図やMPD(My Picture Dictionary 以下MPD)を手がかりに、自分が行きたい場所やそこでしたいことについて自由に伝え合う活動を行う。ここでは、want to に動詞を加えた新出表現が出てくる、児童の既存の知識やその場で得る情報には限りがあるという理由から、内容の深さではなく、たくさん聞いたり話したりすることを重視する。それにより、既習の欲しいものを伝える want との違いに気付き、表現の定着につなげることができるのではないかと考える。単元の後半では、話題を青森県に移し、単元の前半で慣れ親しんだ表現を使って、行きたい場所とそこでしたいことを伝え合う活動を行う。その際、行きたい場所とそこでしたいことに加えて、既習表現を使ってより詳しい内容にすることを意識付ける。この時点では、まだ青森県の魅力に十分気付いていないかもしれないが、Small Talk で教師が紹介したり、総合的な学習の時間に触れた弘前市周辺の魅力について話題にしたり、児童同士でたくさん伝え合ったりすることで情報を蓄積させていく。単元の最終ゴールとしては、自分たちが考えた青森県の魅力をALTに向けてグループでPRする活動を行う。この時、ALTと一緒にしたいこと、ALTに勧めたいことという観点を示し、既習のI want to やYou can という表現が使用できることを確認する。相手意識がより重要となるので、どのような内容にしたら自分たちの思いが伝わるのかグループで考えたり、練習したりする時間を十分確保してねらいに迫る。

III 子どもについて

全体的に、外国語の学習に意欲的で、既習事項を積極的に使って話そうとする、新しい表現を知ろうとする意欲が高い。しかし、外国語を苦手と感じている児童も一定数いて、英語の発話量が少なかったり、安心できる仲間とだけ関わったりすることが課題である。外国語の時間には、「いつでも・どこでも・だれとでも」をキーワードに、仲の良し悪しに関わらず、いろいろな人と関わることが当たり前になるような雰囲気づくりと、間違ったり、周りとは違ったりしても大丈夫という雰囲気づくりに努め、全員が安心してコミュニケーションできる場を作っていきたい。そして、一人ひとりの気持ちや考えが違っていることに価値があると気付かせていきたい。そのために、ペアやグループづくりのメンバー構成を工夫して多くの人と関わる機会を保障することや、全員が平等に発言できるような環境づくりに努めたい。

本時に関わる児童の既存の知識や経験を知るために、①青森県以外の魅力があると思う都道府県とその理由、②青森県で魅力があると思う場所、こと、ものの3点について問う事前アンケートを実施した。その結果として、大規模なアミューズメントパーク、スポーツや音楽ライブのイベントがある東京や大阪などを特に魅力に感じていること、気候や自然に特色がある北海道や沖縄にも魅力を感じていること、地域の名物であるおいしい食

べ物を魅力と考えていること、また、数は少ないものの、歴史的な背景や建造物、地域の自然に目を向けている児童がいることが分かった。青森県については、自分たちの住む弘前市の建造物や自然、祭りや食べ物、弘前市以外では、自分が行ったことがある場所を魅力として捉えていることが分かった。さらに、地域の特色と呼べるものがないショッピングセンターや全国チェーンの店を魅力として挙げている児童もいた。このアンケートの実施後、総合的な学習の時間の一環として、禅林街、土手町、黒石こみせ通りなど、景観をテーマに地域を探索する活動を行っている。

IV 校内研究との関わりと目指す子どもの姿

四校園の研究テーマ	「自ら考え、自律的に行動する子の育成」
小学校研究主題	「多様性を生かした学びの環境づくり ～共に学びの主体者に～」
外国語部研究主題	「外国語を使っていきいきと表現し合う子」

外国語活動・外国語では、「自ら考え、自律的に行動する子」を、課題に合わせて自分が話す内容を選択し、既習表現を使って言語化することができること、学習の目的を達成するために多くの仲間と関わることができることと捉える。そのため、日常的に **Small Talk** やコミュニケーション活動を重視し、自分の気持ちや考えを伝え合う場を多く設定している。また、セルフタイムと称して、子ども自身が今自分に必要なことは何かを自己決定して取り組む時間を確保している。

本時では、本単元のゴールである「ALTに青森県の魅力をPRする」ために、自分もつ知識や経験を整理し、既習の表現を用いて伝える活動を行う。相手意識が大切な活動になるため、ALTの好みを聞いたり、仲間と情報共有したりしながら、一人ひとりが自分が考える青森県の魅力を伝えることができるようにしていきたい。その際、お互いが、よりよい話し手となり、よりよい聞き手にもなることを意識付けたい。よりよい話し手として、はっきり話す、相手を見る、笑顔で関わるというコミュニケーションの基本に加え、自分が選んだ青森県の魅力を **I want to** や **You can** などの既習表現を使って、より分かりやすく伝えるために情報をつけ加えながら話している姿を目指す。よりよい聞き手としては、相手の話に対して、質問や感想など言葉で反応しながら聞いている姿を目指す。以上により、外国語研究部の主題である「外国語を使っていきいきと表現し合う児童」に迫る。

(1)単元の目標

- ・ALTに青森県での生活をもっと楽しんでもらうために、観光地や名物などの青森県の魅力をPRすることができる。

(2)評価規準

領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと・発表	<知識> Where do you want to go?, I want to go to ~, Why [What] do you want to~? I want to ~. You can ~. 及びその関連語句について理解している。 <技能> 行きたい場所やその魅力について、I want to go to ~, I want to ~. You can ~. 及びその関連語句を用いて、自分の考えや感想を話す技能を身に付けている。	青森県の魅力をALTにPRするために、行きたい場所やそこでのしたいことなどについて、既習事項を用いて、自分の考えや感想などを話している。	青森県の魅力をALTにPRするために、行きたい場所やそこでのしたいことなどについて、既習事項を用いて、自分の考えや感想などを話そうとしている。

単元のゴールで目指す姿の例（話すこと・発表）

Hello. Welcome to Aomori.

I want to go to Kazamaura village with you.

I want to see the squid race.

You can eat fresh seafood.

It's delicious.

「話すこと〔発表〕」の評価基準

知・技	A : B よりも、十分満足できる。
	B : I want や You can などの表現をおおむね正しく用いて、青森県の魅力を話している。
	C : B に達していない。
思・判・表	A : B よりも、十分満足できる。 Bに加えて、相手により分かりやすく伝えようとする工夫が見られる。
	B : 相手の希望や好みに応じて、説明や感想を付け加えながら青森県の魅力を話している。
	C : B に達していない。
主・的	A : B よりも、十分満足できる。
	B : 自分の紹介をよりよくするために、自分の課題を明確にし、適切な準備や方法を選んで活動している。
	C : B に達していない。

(3)単元の指導計画及び評価の計画

時	◆目標 ○主な活動	◎評価規準	☆支援 ・自律の姿
1	◆自分たちの住む地域にあるもの、人、ことに目を向け、紹介の仕方を知る。 I live in, I like, We have, You can This is ○Small Talk (私の住む場所) ○住んでいる場所の言い方 ○地域にある建物の言い方	[目指す姿に向けた環境づくり] ・記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。 ・本単元で扱う語句や表現を十分聞かせ慣れ親しませる。	☆自分で選ぶことを基本とするが、どうしても選ぶことができない児童に選択肢を提示する。
2	◆自分たちの住む地域にあるもの、人、ことについて、内容を整理した上で話すことができる。 ○Small Talk (町の自慢) ○地域の自慢を考え、伝え合う。		・自分が地域の自慢だと思えることを資料を用意して相手に分かりやすく伝えようとする。
3	◆行きたい場所とそこでしたいことのやり取りから、具体的な情報を聞き取り、ゴールへの見通しをもつ。 ○Small Talk (日本の魅力①) ○自分が行ってみたいと思った場所を伝える。		☆自分で選ぶことを基本とするが、どうしても選ぶことができない児童には選択肢を提示する。
4	◆行きたい日本の場所とそこに行きたい理由について、伝え合う。 ○Small Talk (日本の魅力②) ○MPDを見ながら自分の行きたい日本の場所とその理由について伝え合う。		☆ALTとともに、I want toを使った表現が身に付いているか確認する。学習表現が定着していない児童への個別の支援を行う。
5	◆行きたい日本の場所とそこに行きたい理由に、そこでしたいことなどの情報を付け加えて、伝え合う。 ○Small Talk (日本の魅力③) ○MPDを見ながら自分の行きたい日本の場所とそこでしたいことについて伝え合う。	◎中間評価 行きたい日本の場所とそこに行きたい理由に加えて、そこでしたいことなどの情報を付け加えて、伝え合っている。	・自分が一番行きたい日本の場所を決め、3文程度で自分の考えを話す。
6 本時	◆青森県の魅力について考え、学習した表現を使って伝え合う。 ○Small Talk (日本の魅力④)	◎ALTへの青森県の魅力紹介へつなげるために、I want to や You can など既習の表現を適切に選択しながら、青森県の魅力や自分の考えを伝え合っている。	・自分が青森県の魅力だと思えることについて伝える。 ・相手の話に対して言葉でリアクションする。

7	◆グループごとにALTに青森県の魅力を紹介する準備をする。 ○Small Talk (日本の魅力⑤)	・記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。	☆グループ内での個人の役割を明確にするように働きかける。
8	◆グループごとにALTに青森県の魅力を紹介する。	◎ALTに青森県での生活をもっと楽しんでもらうために、観光地や名物などの青森県の魅力をPRすることができる。	・グループ内での自分の担当部分をALTに伝えている。
9	◆世界に影響を与えている日本の文化について考え、日本と世界の文化に対する理解を深める。	・教師の評価を提示し、児童の自己評価と比べながら単元の振り返りを行う。	・単元全体を振り返り、自分の気づきやできるようになったことなどを記述している。

(4)本時の目標 (6/9)

- ・ALTへの青森県の魅力紹介へつなげるために、I want to や You can など既習の表現を適切に選択しながら、青森県の魅力や自分の考えを伝え合うことができる。 [話すこと・やり取り(思考力・判断力・表現力等)]

(5)本時の学習

○学習活動 T:teacher S:student	・教師の働きかけ ◎評価 校内研究との関わり
挨拶をする。	
1 Small Talk (山形 VS 兵庫) T1 : I want to go to Yamagata. You can eat <i>Yonezawa</i> Beef and cold ramen . You can go to <i>Ginzan Onsen</i> . It's the model of Spilited Away. T2 : I want to go to Hyogo. You can eat <i>Kobe beef</i> and <i>Akashiyaki</i> . You can see Himeji Castle. It's white and beautiful. T1 : Where do you want to go?	・山形県と兵庫県の魅力を紹介することで、魅力を紹介する表現に触れる機会とする。 ・T1 と T2 の話を聞き、I want to を使って自分の考えを伝えたり、質問したりするように促す。
2 表現の復習をする。 ○日本で行きたい場所について、T1 か T2 に伝える。 T1(T2) : Where do you want to go? S : I want to go to Osaka. T1(T2) : Why do you want to go to Osaka? S : I want to enjoy USJ.	・全児童とやり取りをすることで発話の機会を保障するとともに、表現の定着を見取る。
3 学習課題を確認する。 T1 : Do you like Aomori? T2 : Yes, I do. But I don't know much about Aomori. T1 : I see. What do you like ? T2 : I like the nature. I like the festival. I like the food. I like the interesting buildings. I like shopping.	・T1 と T2 のデモンストレーションを見せ、本時のゴールについて見通しをもてるようにする。 ・より多くの情報を集めるために、T2 への質問タイムを取る。
自分が考える青森県のみ力を伝え合おう。	・児童の言葉を元に学習課題を決める。
4 前時までの学習を想起し、どんな表現を使うことができるか確認する。 場所 : I want to go to	・どの既習表現を使用するかは児童が選択する。 ・それぞれについて、どんな表現を使っ

自然・建物 : I want to 【You can】 see 祭り : I want to 【You can】 enjoy 食べ物 : I want to 【You can】 eat 買い物 : I want to 【You can】 buy 5 青森県の魅力について伝え合うための準備をする。 ・何にするか迷っている→T 1 ・何にするか決まっているが英語に自信がない→T 2 ・何にするか決まってい英語も大丈夫→児童同士 全児童が取り組むこと ①前時に作ったメモを参考に自分が紹介するものを決める。 ワークシートに丸をつける。 ②行きたい場所を紹介する文を T1 か T2 に伝える。 S : I want to go to Hirosaki Park. 6 青森県の魅力について伝え合う。(1回目: 2人) S1 : Where do you want to go? S2 : I want to go to Hiroaki Park. S1 : Why? S2 : You can see cherry blossoms. S1 : I see. 7 見直しタイムを行う。 ○工夫したこと、難しかったこと、確認したいこと、知りたいことなどを確認する。 8 青森県の魅力について伝え合う。(2回目: 2人) S1 : Where do you want to go? S2 : I want to go to Hiroaki Park. S1 : Why? S2 : You can see cherry blossoms. It's beautiful. You can enjoy festival food. S1 : Great. 9 振り返りを行う。 ○話し手としての自分、聞き手としての自己評価をワークシートに記入する。 挨拶をし、次時の予告をする。	て紹介することができるか確認する。 取り組む内容を自己決定する場の設定 ・前時に作ったメモを参考に、自分が紹介しようと思っていることをどのように表現するか考える時間を設定する。 ・全児童とやり取りをすることで発話の機会を保障するとともに、進捗状況を見取る。 活動を振り返り、課題を明確にして次の活動にいかす場の設定 ・よりよく伝えるための自分の課題を明確にする。 ◎ALT への青森県の魅力紹介へつなげるために、I want to や You can など既習の表現を適切に選択しながら、青森県の魅力を伝え合おうとしている。 [話すこと・やり取り／思考・判断・表現 行動観察・発表／ワークシート] ○振り返りシート ・ ・次時の発表に活動に向けての意識付けを図る。
---	--

(6)板書計画

November 15th, Saturday

自分が考える青森県のみ力を伝え合おう。

1 Small Talk

2 ふく習

3 めあて

4 言葉の確認

5 セルフタイム

6 コミュニケーション1回目

7 見直しタイム

8 コミュニケーション2回目

9 ふりかえり

Rice 先生が好きなこと

自然・建物

祭り・行事

食べ物

買い物

see

enjoy

eat

buy